



●この説明書は、必ず取付けされる方にお渡しください。

■取付けされる方へのお願い

●本説明書で使われているマークには、以下のような意味があります。

▲注意 …取付けを誤った場合に、使用者などが中程度の傷害・軽傷を負う危険または物的損害の発生が想定されます。冒頭にまとめて記載していますので必ずお読みください。

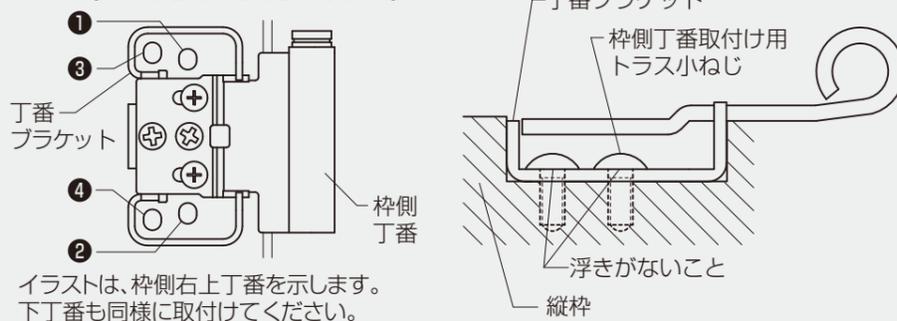
▲注意

●**枠側丁番のねじを取付ける際は、A図の①～④の順にねじが丁番ブラケット面に当たるまで確実に締込んでください。①～④の順に取付けをおこなわないと、丁番傾きの原因となり、取付け後に本体が垂下がり、枠や床を傷つけるおそれがあります。**

●**本体を吊込んだ後、本体側上丁番の軸を必ず下げて、本体が外れないことを確認してください。本体脱落の原因につながります。**

●**建付け調整(丁番による調整)時、枠側丁番の固定ねじは必ずゆるみ・ガタツキがないように締付けてください。本体脱落の原因になります。**

■A図(枠側丁番取付け詳細)



イラストは、枠側右上丁番を示します。下丁番も同様に取付けてください。

■取付け上のお願

- 納品時に各部材・部品を検品してください。万一製品に不具合があった場合は、必ず取付け前にお買い求め店までご連絡ください。(施工後の色調・不具合・キズなどによる交換はできません。)
- 運搬・加工の際は、傷つかないように取扱ってください。また、水・直射日光の当たる場所に、開梱状態で置かないでください。ソリ・ねじれの原因になります。
- 造作材・建具枠をコンクリートやモルタル(床面)に直付けしないでください。やむを得ず直付けする場合は、造作材・建具枠木口と床面の間に、必ず防水処理をしてください。
- 造作材・建具枠と柱・間柱・まぐさとの間には必ずすき間をつくり、かい木を入れてください。
- 造作材・建具枠の下地材および、かい木には、合板などの乾燥材(含水率20%以下)を使用し、湿潤材は使用しないでください。
- 造作材・建具枠を取付ける時は、必ず接着剤(現場手配)を併用してください。かい木を使用する場合は、かい木の両面に接着剤(現場手配)を塗布してください。
- 現場で使う接着剤は、「F☆☆☆☆」またはノンホルムタイプを使用してください。
- 壁内の通気が悪く、内部結露が発生するおそれがある場合は、防水処理をしてから取付けしてください。
- 梁またはまぐさが軽量鉄骨の場合は、ねじ保持力が弱いので直接固定しないでください。必ず枠と軽量鉄骨の間に木枠を入れて取付けしてください。
- 本製品の組立て・取付け時には、同梱の指定ねじを使用してください。他のねじを使用すると、部品・部材の脱落や、枠の垂下がり・ゆがみなどの原因となります。(本説明書内で「現場手配」と記されている場合は除きます。)

- 本製品のねじ締付け時には、クラッチ付きドライバーを使用してください。締付けトルクが強すぎると、ねじが空転したり、ねじの頭がとんだり、つぶれたりする場合があります。
- 組立てねじは、縦枠とねじ頭が面一になるまで締込んでください。ただし、たたき込まないようにしてください。保持力低下の原因になります。
- 各部材のガイド穴にゴミが入らないようにしてください。
- 枠の組立て後、揺らす・ねじれ・引っ張りなど無理な力を加えないでください。破損の原因になります。
- 枠取付けの際は、水準器・下げ振りなどで水平・垂直を確認してください。
- 枠は倒れ、傾き、タイコ、ツツミ、ねじれがないように取付けてください。
- 丁番は指定のねじで締付け、ガタツキのないように固定してください。調整後ガタツキがないことを確認してください。
- 戸当りは、ハンマーなどで直接たたき込まないでください。
- ドアストッパーを壁に取付ける場合は、補強材が入っていることを確認してください。
- ツバ材取付けの際、ハンマーなどで強くたたき込まないでください。
- 本体は落下させたり、立てかける時に衝撃を与えないでください。本体部品が損傷し、開閉に支障をきたす原因になります。
- 現地張りタイプの場合、和室側をクロス張りにしないでください。ソリが生じます。
- 製品取付けの際の建具養生時に表面シートにテープ(ガムテープ、養生テープ、マスキングテープなど)を直貼りしないでください。テープをはがす際、表面シートを傷めたり、テープの粘着剤が表面シートに付着したまま残ることがあります。

■本体保管上のお願

- 本体のソリ・ねじれ防止のため、下記場所に置いたり、保管しないでください。
・直射日光の当たる場所 ・昼夜などで温度差の激しい場所 ・湿気の多い場所
 - 本体を長期間保管する場合は、寝かせた状態で保管してください。立て置きでの保管はソリ・ねじれなどの原因になります。
- ※建築工事中は、本体を養生・保全のため取外しておき、取付け完了後に吊込むことをおすすめします。

■部品・部材の明細

ドア本体	3方枠	ツバ付薄沓すりセット	ツバなし薄沓すりセット	ケーシングセット
<p>別売り部品セット 丁番セット ハンドルセット 錠セット</p>	<p>縦枠(2本) 部品セット 上枠 上枠用戸当り 縦枠用戸当り(2本) 取付け説明書</p>	<p>ツバ付薄沓すり ツバ材(2本) 部品セット</p>	<p>ツバなし薄沓すり 部品セット</p>	

※3方枠と下枠はそれぞれ別梱包になっています。
※ケーシングは本体・枠と別梱包になっています。

■枠セット明細

	標準ドア
縦 枠	2
上 枠	1
戸当り	縦2・上1

■丁番セット明細

本体側丁番(上)	1個
本体側丁番(下)	1個
枠側丁番(上)	1個
枠側丁番(下)	1個
ブラケットカバー	2個
枠側丁番取付けねじ(トラス小ねじ)M4×10	8本
本体側丁番取付けねじ(皿タッピンねじ)φ4×20	8本

■ケーシングセット明細

上用ケーシング	1
縦用ケーシング	2

■ハンドルセット

レバーセット	1組
座セット	1組
ハンドル固定ねじ	1本
箱錠セット	1組
箱錠取付けねじ	2本

■枠用部品セット

組立て用皿小ねじM4×50	4本
上枠・縦枠取付け用DNビス(皿木ねじ)φ3.8×50	9本

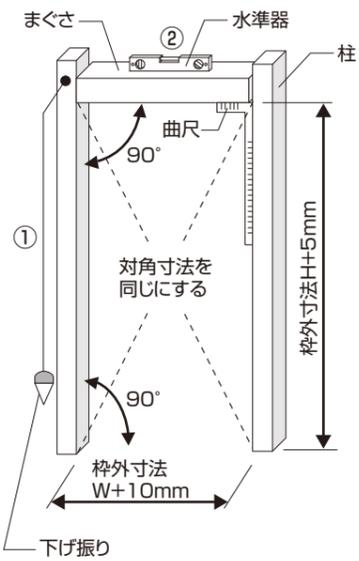
■ツバ付・ツバなし薄沓すり用部品セット

組立て用皿小ねじM4×50	4本
---------------	----

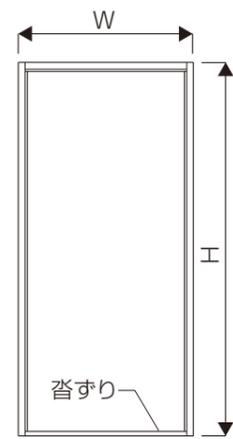
■沓すりセット明細

	ツバ付薄沓すり	ツバなし薄沓すり
薄沓すり	1	1
ツバ材	1	—

開口部の作り方

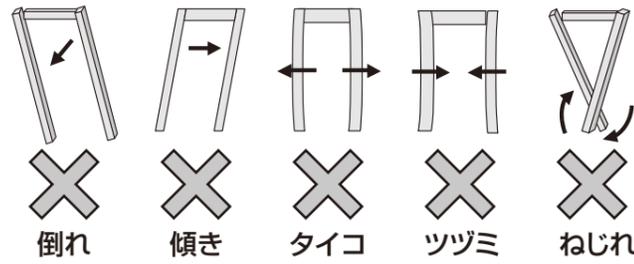


●製品寸法



- ①下げ振りを使って、柱が垂直になるように取付けてください。
- ②水準器・曲尺を使って、まぐさが柱と垂直で、水平になるように取付けてください。

※柱、床、まぐさの水平・垂直がでていないと、枠が下図のようになり、不具合現象につながります。



■取付け範囲

(単位:mm)

	薄壁用	厚壁用	204用
対象壁厚	117~160	131~175	114

■壁厚の違いによる枠とケーシングの組合せ

(単位:mm)

	ケーシング (足寸法)	対応壁厚
薄壁用	8	117~126
	14	121~132
	19	127~137
	42	132~160
厚壁用	8	131~141
	14	136~147
	19	142~152
	42	147~175
2×4用	8	114

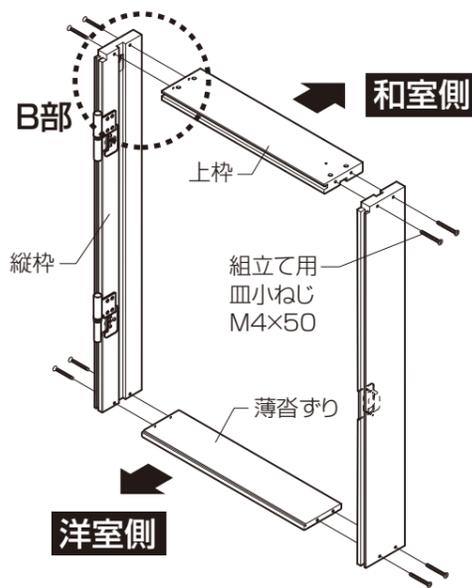
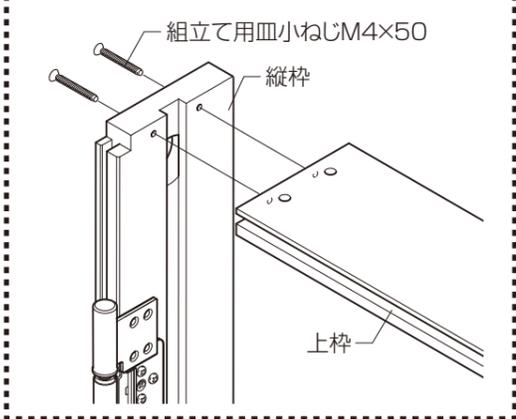
組立て・取付け詳細

※本取付け説明書は、「洋室側開き」で手順を説明しています。「和室側開き」の場合は、丁番・ドア本体の向きを読みかえて参照してください。

1 枠の組立て

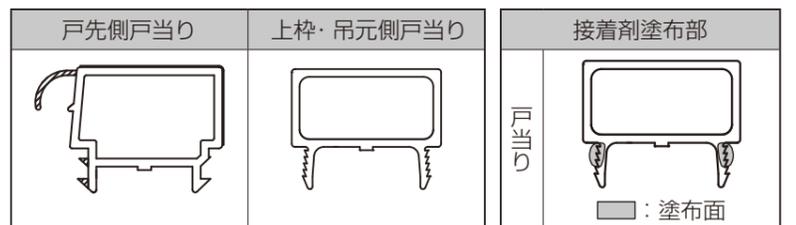
●右図のように各部材を組み合わせ、同梱のねじ(皿小ねじM4×50)で固定します。

■B部詳細図



3 戸当りの取付け

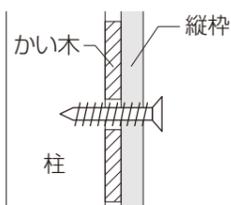
戸先側と吊元側で戸当り形状が異なります。事前に確認してから取付けしてください。



- ①現場で戸当りの寸法を合わせて、パッキン側より切断してください。
 - ②戸当りの足の外側(リップのある面)に接着剤(現場手配)をつけ、固定してください(塗布面は上図参照)。接着剤(現場手配)がはみ出した場合は必ず拭き取ってください。
- ※上枠用→縦枠用の順に取付けてください。

2 枠の取付け

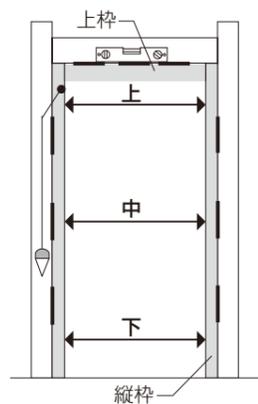
①開口部と縦枠・上枠との間にかい木を入れて取付けます。



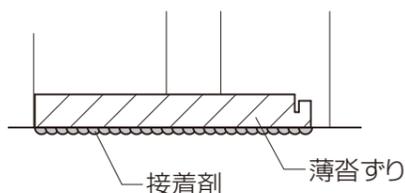
※かい木は100mm以上を使用して木工用ボンドで接着してください。

②上下・左右のすき間をかい木で調整し、水準器・下げ振りを使って枠に倒れ・傾き・ねじれがないこと、開口寸法(W寸法)が上・中・下の個所でそろっていることを確認した後、同梱のねじ(DNビスφ3.8×50)を本固定してください。

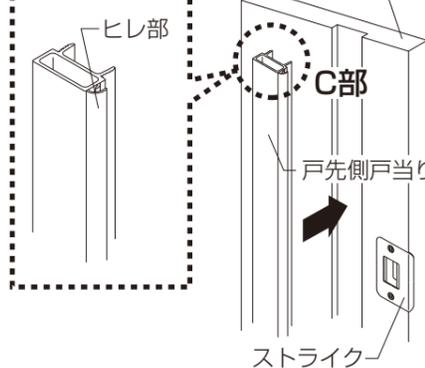
※枠に水糸を張る等して枠が曲がっていないことを必ず確認してください。



※必ず薄沓すりに接着剤(現場手配)を塗布し、躯体に固定してください。
※15mmの床材の場合は、薄沓すりと下地材(現場手配 t=3mm)に接着剤を塗布してください。

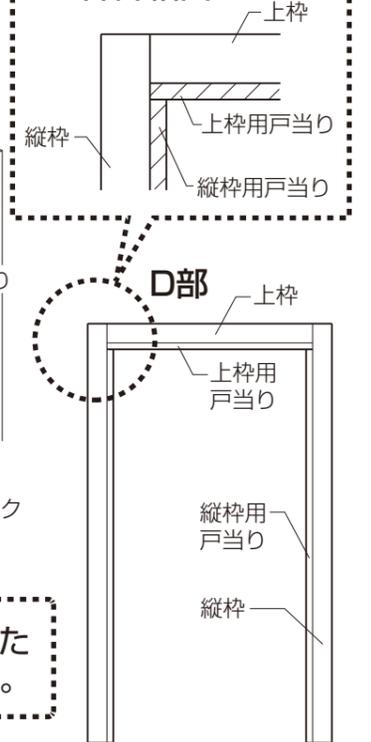


■C部詳細図



戸先側戸当りはヒレのある側がストライク側を向くように取り付けしてください。

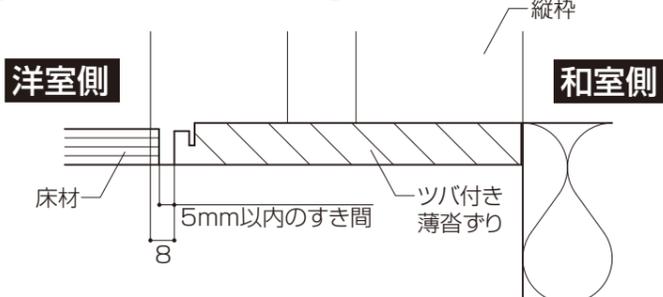
■D部詳細図



お願い
※ハンマーなどで直接たたき込まないでください。

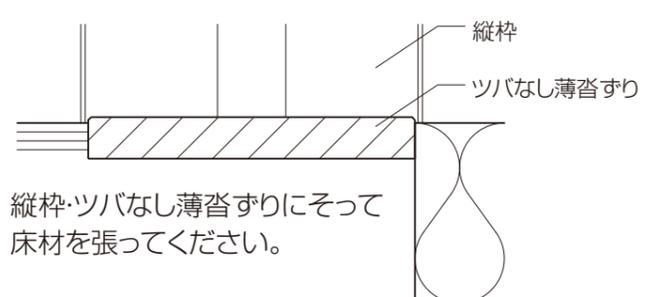
③枠取付け後、下図のように床材を張ってください。

【ツバ付薄沓すりの場合】



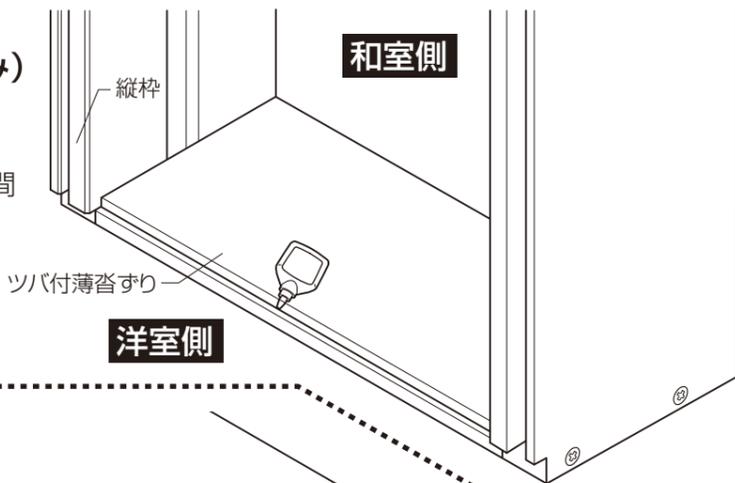
お願い
※床材と沓すりのすき間は5mm以内にして下さい。ただし、キャスターや車いすなどの荷重がかかる場合は、すき間をあけないでください。

【ツバなし薄沓すりの場合】



4 ツバ材の取付け (ツバ付薄沓すりを使用する場合のみ)

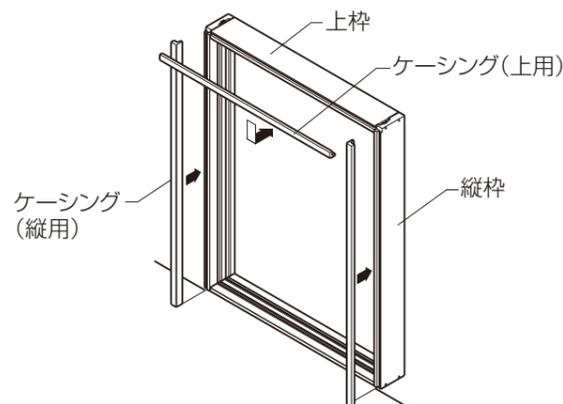
- ①現場でツバ材の寸法を開口に合わせて切断してください。
- ②溝に接着剤(現場手配)を溝全長にすき間なく塗布してください。
- ③ツバ材を溝に手ではめ込んでください。



5 ケーシング材の取付け

※壁材・床材を仕上げしてからケーシングを取付けてください。

- ①別梱のケーシングを現場寸法に合わせて切断します。(上用ケーシングは、枠に合わせてあらかじめカットしてあります。)
- ②枠のケーシング溝へケーシングを差込みます。
- ③ケーシング溝とケーシング裏面に接着剤(現場手配)を塗布し、ケーシングを固定します。



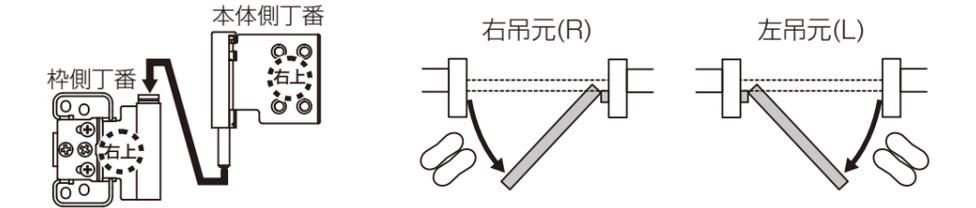
お願い

●ツバ材は、ハンマーなどでたたき込まないでください。

※下記個所に接着剤を塗布してください。

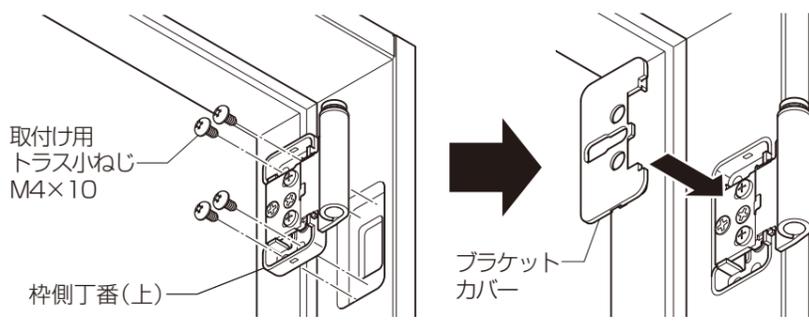
6 ドア本体の取付け

- お願い**
- ※丁番取付け前に枠側・本体側羽根の刻印を見て、丁番の上下左右を確認してください。
 - ※右吊元には右用丁番、左吊元には左用丁番が取付きます。
 - ※本体取付け時には、同じ刻印同士になるように、取付けてください。



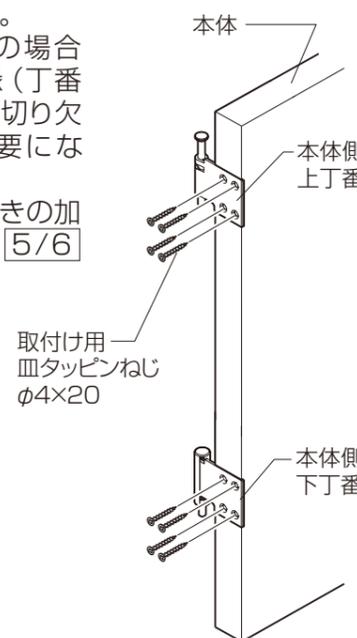
1 枠側丁番の取付け

- ①吊元側縦枠に、枠側丁番を同梱のねじ(トラス小ねじM4×10)で取付けます。
- ※その際、右の注意点のとおり取付けてください。
- ②ブラケットカバーを「パチッ」と音がするまでしっかりはめ込みます。



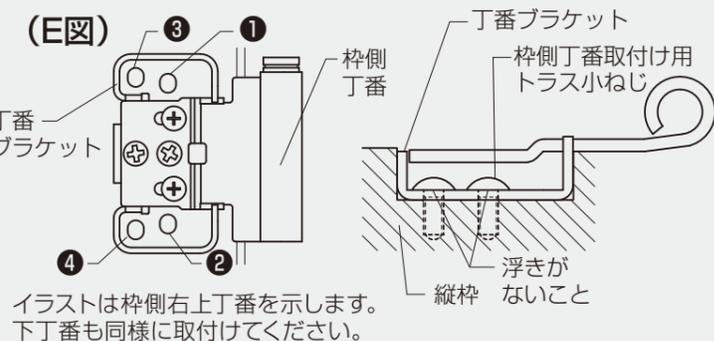
2 本体側丁番の取付け

- ①本体に、本体側丁番を同梱のねじ(皿タップピンねじφ4×20)で取付けます。
- ※ドア本体は左右兼用です。取付けの際は、本体の上下を確認してください。
- ※和室側開きの場合は、本体襖縁(丁番取付け部)に切り欠き加工が必要になります。(和室側開きの加工について5/6ページ参照)



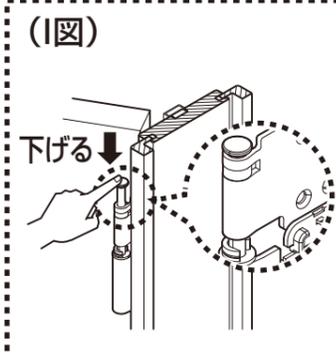
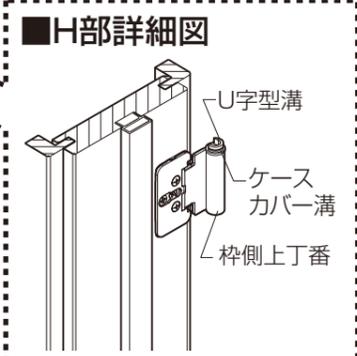
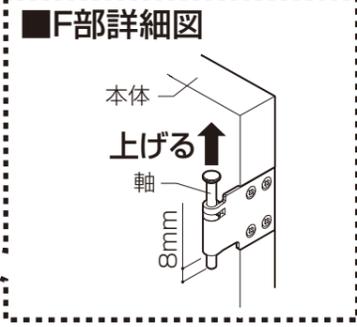
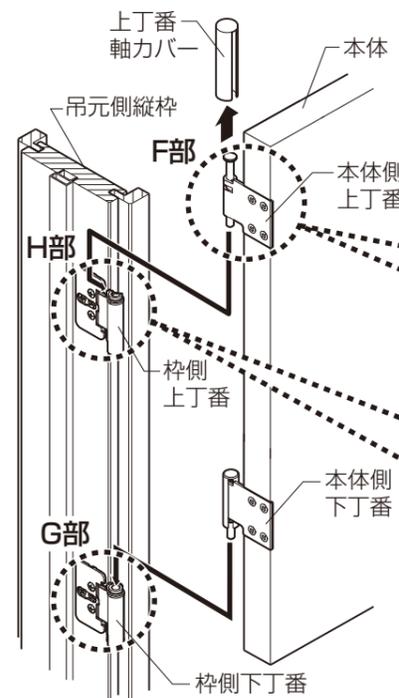
▲ 注意

- 枠側丁番のねじを取付ける際は、E図の①～④の順に、ねじが丁番ブラケット面に当たるまで確実に締め込んでください。①～④の順に取付けをおこなわないと、丁番傾きの原因となり、取付け後に本体が垂下がり、枠や床を傷つけるおそれがあります。



3 ドア本体の取付け

- ①下丁番軸カバーを上げます。
- ②上丁番軸カバーを外してください。
- ③本体側上丁番の軸を止まるまで上げます。(F部) ※軸は8mm程残した位置で止まります。
- ④本体側下丁番を枠側下丁番に差込みます。(G部) ※本体側下丁番の軸を垂直に差込んでください。
- ⑤本体側上丁番の軸を枠側上丁番のU字型溝にはめ込み、本体を吊込みます。(H部)
- ⑥本体側上丁番軸を止まるまで下げてください。(I図)
- ⑦上丁番軸カバーを取付けます。
- ※枠側上丁番のケースカバー溝にはめ込んでください。
- ⑧下丁番軸カバーを下げます。
- ※枠側下丁番のケースカバー溝にはめ込んでください。
- ⑨本体側上丁番の軸が下がっていることを確認してください。



▲ 注意

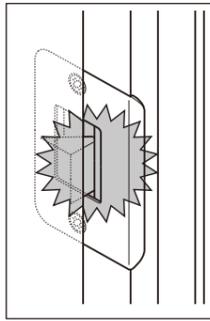
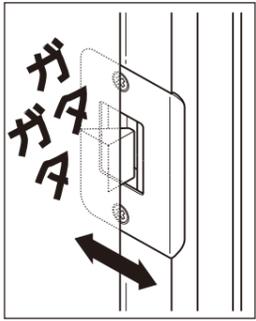
- 本体を吊込んだ後、本体側上丁番の軸を必ず下げて、本体が外れないことを確認してください。本体脱落の原因につながります。
- 建付け調整(丁番による調整)時、枠側丁番の固定ねじは必ずゆるみ・ガタツキがないように締付けてください。本体脱落の原因になります。

■本体の調整

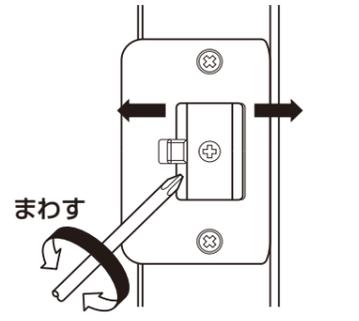
1 建付け調整(ストライクによる調整)

●ラッチがストライクの中でガタついたり、ラッチがかかりにくい場合はプラスドライバーでストライクの調整ねじを回して調整してください。

■ラッチがストライクの中でガタつく ■ラッチがかからない



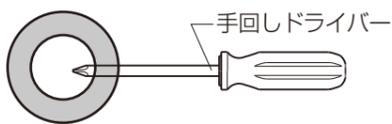
ストライク調整ねじ
可能調整範囲±3mm



2 建付け調整(丁番による調整)

※建付け調整は必ず、手回しドライバーを使用してください。

※電動ドライバーは、使用しないでください。ねじ頭が壊れるおそれがあります。



ドア建付け調整方法
動画



5344728746001

上下の調整

- 本体側下丁番で調整します。
- 調整幅は、上側に3mm、下側に3mmです。

不具合例	調整方法
1. ドアの上部が枠に当たる。	<ol style="list-style-type: none"> ①本体側下丁番の軸カバーを外す。 ②上下調整ねじを左に回しドアを下げて位置を決める。 ③軸カバーをはめる。

不具合例	調整方法
2. ドアの下部が枠に当たる。	<ol style="list-style-type: none"> ①本体側下丁番の軸カバーを外す。 ②上下調整ねじを右に回しドアを上げて位置を決める。 ③軸カバーをはめる。

左右の調整

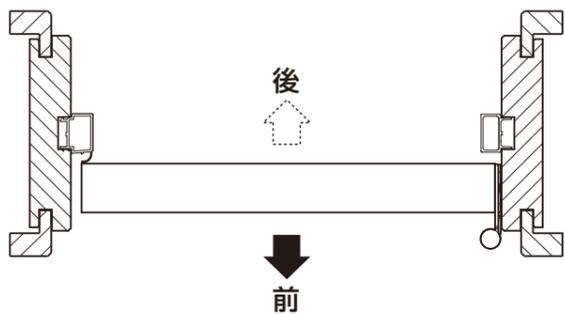
- 枠側上丁番および枠側下丁番の両方で調整します。
- 調整幅は、吊元側に1.5mm、戸先側に2mmです。

不具合例	調整方法
1. ドアの戸先側が枠に当たる。	<ol style="list-style-type: none"> ①固定ねじをゆるめる。 ②左右調整ねじを右に回してドアを吊元側に移動し位置を決める。 ③固定ねじを締める。 ④固定ねじが必ず締まっていることを確認してください。

不具合例	調整方法
2. ドアの戸先側のすき間が大きすぎる。	<ol style="list-style-type: none"> ①固定ねじをゆるめる。 ②左右調整ねじを左に回してドアを戸先側に移動し位置を決める。 ③固定ねじを締める。 ④固定ねじが必ず締まっていることを確認してください。

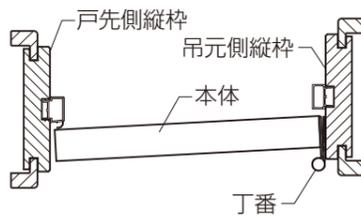
前後の調整

- 枠側上丁番および枠側下丁番の両方で調整します。
- 調整幅は、前(4mm)、後(1mm)です。



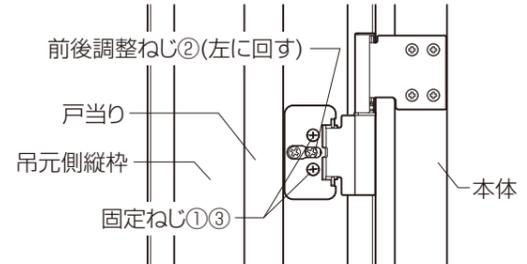
不具合例

1. 戸先側の枠が前に出ている。



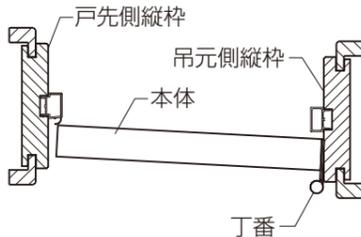
調整方法

- ① 固定ねじをゆるめる。
- ② 前後調整ねじを左に回してドアを前に移動させる。
- ③ 固定ねじを締める。
- ④ 固定ねじが必ず締まっていることを確認してください。



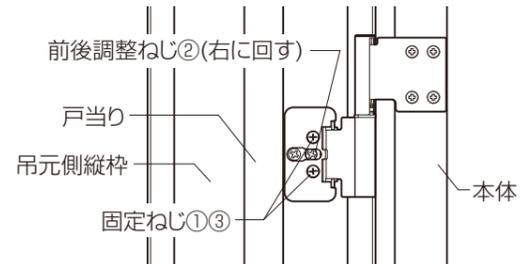
不具合例

2. 戸先側の枠が前に出ている。



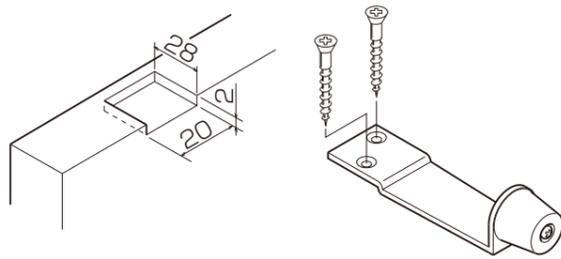
調整方法

- ① 固定ねじをゆるめる。
- ② 前後調整ねじを右に回してドアを後に移動させる。
- ③ 固定ねじを締める。
- ④ 固定ねじが必ず締まっていることを確認してください。



3. ドアストッパーの取付け(オプション)

■ 本体上部取付け用(別売り)



本体上部に必ず加工をしてください。

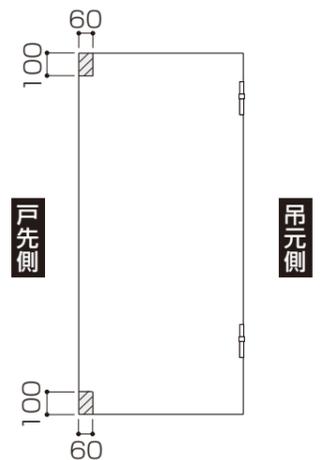
【本体取付け用ドアストッパーおよび、キャッチの取付け範囲】

《市販のドアストッパーを取付けする場合》

※ 下図の斜線範囲内にドアストッパー本体または、キャッチを取付けてください。

(他の箇所は芯材が入っていないため取付けできません。)

※ 取付けにあたっては、下穴をあけて手回しで固定してください。電動ドライバーなどの電動工具で締付けると、空回りすることがあります。



■ 戸襖の現地張り

● 生地タイプの戸襖の場合は、現地で襖紙を張ってください。

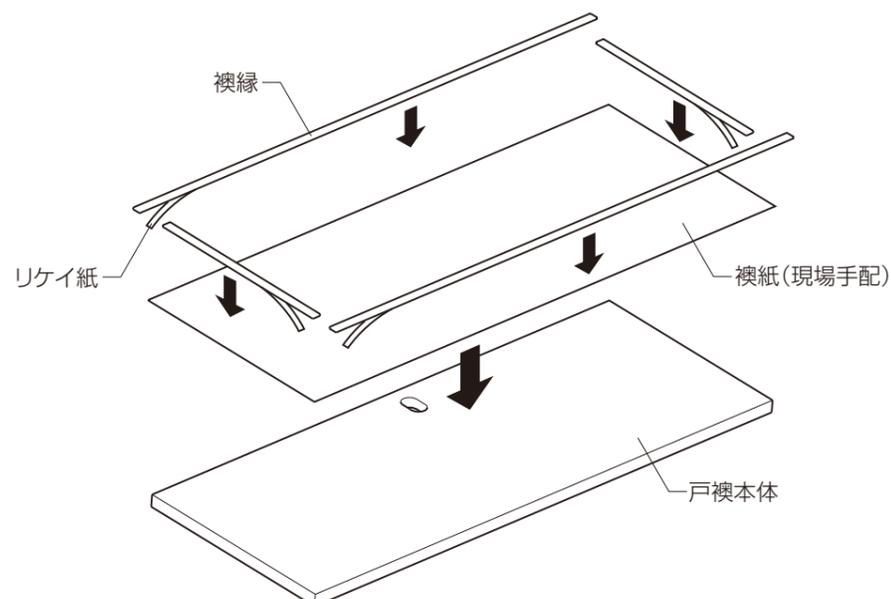
- ① 襖紙を澱粉糊(糊付き紙の場合は水)で張ります。
- ② 襖縁を、本体の寸法に合わせノコギリで切断します。
- ③ 襖縁のリケイ紙をはがし、襖紙の上から圧着してください。

※ 襖縁の厚さは2種類あります。厚い方を縦に、薄い方を横に使用してください。

※ 現場手配した襖紙を張った場合は、次回の張替え時から上に張増ししてください。

お願い

※ クロス張りにしないでください。ソリが生じます。

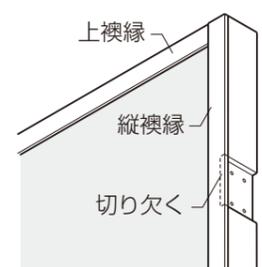


■ 和室側開きの加工について

● 和室側開きの場合は、本体襖縁(丁番取付け部)に切り欠き加工が必要になります。下図を参考にして現場で加工してください。



■ A部(丁番取付け部)詳細図



■ 加工部詳細

